

旧研究所スタッフ随想 4

日本文化研究所時代を振り返る

茂木 栄

1. 日本文化研究所の嘱託研究員の頃

國學院大學日本文化研究所が創設 60 周年を迎えるにあたって、一文を寄せるように要請された。

私は昭和 59 (1984) 年度より嘱託研究員として日本文化研究所に週 2 日勤めることとなった。当時助教授であった藺田稔先生が呼んで下さったのである。参加プロジェクト名は「祭礼調査とその資料化に関する研究」。同じ嘱託研究員であった宇野正人氏の下に配置され、藺田稔先生の薫陶を受け、宇野正人氏の調査手法を学んだ。『國學院大學日本文化研究所五十年誌』(平成 20 (2008) 年 3 月刊)を見ると、このプロジェクトにはもう一人坪井洋文氏が担当教員として加わっている。

当時坪井洋文氏は、千葉県佐倉市に建設された「国立歴史民俗博物館」の民俗研究部部长として民俗展示の構想を練り上げていた。私は昭和 56 (1981) 年 4 月から坪井洋文氏の下で展示プロジェクト委員及び嘱託研究員として民俗展示構想の検討と構想に従って、全国から何をどのように集めるか、また現地に赴き収集や、民俗仮面の模造面の製作の段取りをつけるなど岩井宏實先生・山折哲雄先生のお手伝いをさせていただいていた。

昭和 59 (1984) 年から、週の前半は佐倉の国立歴史民俗博物館に、後半は渋谷の日本文化研究所に通うことになった。研究所では、個別具体的な祭礼調査と資料収集、分析が行われた。飛騨古川の古川祭の調査研究、奄美大島全村落の民俗風土と神社調査、大和の水分・山口・御県に坐す神々の社を中心とした祭り調査と風土構造の研究、国府祭礼の総合的研究などのプロジェクトで大伝統としての国府総社の祭の分析と在地の小伝統としての一宮の祭との比較分析などを行った。そして、昭和 62 (1987) 年に専任にいただき、平成 14 (2002) 年 4 月の神道文化学部開設に伴って学部に移籍するまでの 16 年間 (嘱託時代を除く) の長きにわたり、研究所でお世話になったことになる。

2. 最も印象に残っている映像制作の仕事

研究所時代の活動で、最も印象に残った仕事を記しておきたい。

調査研究と並行して祭礼・芸能の「分析的記録映像」制作運動と称して、映画・ビデオ制作を行ってきた。最初に手掛けたのは、昭和 50 年代の後半から調査に入った静岡県磐田市見付の裸祭であった。調査の成果は磐田市史のシリーズに収められたが、昭和 59 (1984) 年に 16 ミリ映画『見付天神はだか祭り—海と山との交歓 (遠州総社の祭)—』(55 分) を完成させた。研究所と神社本庁内の民俗文化財研究協議会との共同企画制作の形をとったが、費用は民俗文化財研究協議会に負担していただいた。これは「日本の祭礼行事」シリーズとして後にビデオ化した。刊本としては、平成 3 (1991) 年に『見付天神はだか祭り 海と山との交歓—矢奈比売神社、遠江総社淡海国玉神社祭礼の観察—』(302 頁) を研究所から刊

行していただいた。続いて平成元（1989）年に昭和 50（1975）年から調査に入っていた長野県下伊那郡天龍村の三ヶ村の夏の仏行事（念仏踊り）と冬の神楽（坂部の冬祭り、向方のお潔め祭り、大河内の御神楽）を対比的に描いた映画作品を制作した。『山の祭り 第一部 天龍村の夏』（25 分）、『山の祭り 第二部 天龍村の冬』（55 分）である。重要無形民俗文化財の記録作成事業として研究所の本プロジェクトが映像記録にあたった。この映画は、英語版も制作した。また、EC ヨーロッパの EU への移行と市場統合を控えた昭和 63（1988）年頃、ベルギーの首都ブリュッセルで統合を予祝したユーロパリアジャパンが半年間開かれた。そこに *Japan, Land of Festivals*（『日本は祭の国』英語版、30 分）を制作し出品した。これは評判が良く後に日本語版を制作することとなった。「祭礼調査とその資料化に関する研究」プロジェクトは様々な媒体の資料を収集しながら、資料の一元化を模索していたのであるが、祭祀という調査研究対象の特殊性により、文字による記述分析論文ばかりでなく、必然的に映像を用いた祭祀資料の記録、さらに映像表現による祭祀の分析を進めることとなった。この間に高価な映画制作から比較的安価な業務用ビデオ制作に切替え、研究所には金銭的負担を極力かけないように、民俗文化財研究協議会、諸財団、国、自治体などに負担をいただいていた。映像の質は高く、映像資料を蓄積していた時期は、私がもっぱら撮影をしていたが、その後プロカメラマンの松永国彦氏の力を借りて、多数の映像作品を生み出すことができた。思いつくままに記してみよう。

岩手県黒森：「黒森神楽・舞立ち編」（60 分）、「黒森神楽・巡業神楽宿編」（40 分）

島根県隠岐島：「隠岐島前の神楽」（25 分）、「由良比売神社の海上祭」（30 分）、「隠岐の伝承 芸能」（50 分）、「美田八幡宮の田楽祭」（30 分）

福岡県豊前市：「山人走り」（32 分）、「嘯吹八幡神社の湯立三十三番神楽」（40 分）

海村：「初島の鹿島踊り」（30 分）、「北勢の鯨船神事」（20 分）、「鹿島町江垂日吉神社のお浜下り」（35 分）

一宮：「一宮の祭祀—気多神社平国祭—」（30 分）、「一宮の祭祀—出雲の神在祭—」（27 分）

勅祭：「勅祭の伝統—賀茂祭・葵祭—」（27 分）、「勅祭の伝統—石清水祭—」（27 分）

「日本は森の国」シリーズ（愛・地球博出展ハイヴィジョン作品）；「籠もりくの大和」（17 分）、
「神の木 神の森」（17 分）、「森と現代文明」（14 分）、「森のまつり」（30 分）、「森をつくる話」（17 分）

外国語版

英語版：Aoi-matsuri「賀茂祭・葵祭」（7 分）、Iwashimizu-sai「石清水祭」（7 分）、*Japan, Land of Festivals*「日本は祭の国」（30 分）、*Kamiari-sai in izumo*「出雲の神在祭」（7 分）、*Kunimuke-matsuri*「気多神社平国祭」（7 分）、*Kunimuke-matsuri*「気多神社平国祭」（7 分）、*Iwashimizu-sai*「石清水祭」（7 分）、*Kamiari-sai in izumo*「出雲の神在祭」（7 分）

そして、「気多神社平国祭」「石清水祭」「出雲の神在祭」「賀茂祭・葵祭」の 4 作品については中国語版、フランス語版、ロシア語版、スペイン語版をそれぞれ制作した。

3. 伝統文化リサーチセンター四季の祭りコーナー

なお、これらの映像作品は、再編集し、平成 20（2008）年に開設された伝統文化リサーチセンター資料館の神道展示の一角に、映像で見る四季の祭りコーナーが作られ、春夏秋冬のそれぞれのモニターで最低でも日英語、最多で 5ヶ国語に対応するように作ることができた。これまでコツコツと作り出してきた映像作品が活用され、非常に安価に充実した映像コーナーを提供することができたのが、誇りである。また、このように自由に調査研究映像制作を続けさせてくださった日本文化研究所には大変感謝している。映像制作は公の仕事として現在も続けている。